

キャリア教育

責任者・コーディネーター	衛生学公衆衛生学講座 坂田 清美 教授		
担当講座・学科（分野）	衛生学公衆衛生学講座、分子医化学分野、循環器内科分野、細胞生物学分野、麻酔学講座、腫瘍生物学研究部門、産婦人科学講座、外科学講座、医療開発研究部門		
担当教員	坂田 清美 教授、佐々木 真理 医学部長、小笠原 邦昭 病院長、下沖 収 教授、森野 禎浩 教授、古山 和道 教授、鈴木 健二 教授、齋野 朝幸 教授、前沢 千早 教授、小山 理恵 特任教授、片桐 弘勝 講師、王 挺 特任講師、小原 紀彰 会長、山崎 知子 診療科長、山口 晶子 医務課長、榎屋 美緒 医長、高橋 宗康 医務主幹		
対象学年	4	区分・時間数	講義 6コマ 9.0時間
期間	後期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 2コマ 3.0時間

・学習方針（講義概要等）

<p>医師免許取得後に医療人として進む道は、1つではない。臨床各科の専門医に加え、基礎医学者、社会医学者、行政職など多岐にわたる。そのいずれにおいてもプロフェッショナルとして要求される水準は高く、従って卒後は効率良くキャリアを積むことがレベルアップに必要なってくる。専門医制度や学位や研究の意味について知っておくことで、自己の資質に合わせた将来像を思い描くことができるであろう。また住民の健康に奉仕すべき医療人とはいえ、医療業務の遂行に追われて個人の生活が破綻するようなことがあってはならず、ワーク・ライフ・バランスをいかにうまくとるかを考えなければならない。専門医制度の紹介、研究医の生活、あるいは家庭と仕事の両立に関する具体的事例を紹介する。</p>

・教育成果（アウトカム）

<p>卒後研修制度、専門医制度、および大学院制度の現状を知ることで、将来のキャリアアップに向けて何が重要か説明できる。また、いくつかのロールモデルを参考にすることで、キャリアアップには自由な意志決定とともに社会的制約も存在することを知り、多様な将来像を思い描く自律性を修得する。</p>
<p>(ディプロマ・ポリシー： 1,2,4,5,6,7,8)</p>

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	臨床研修制度の概要について説明できる。
2	専門医制度の概要について説明できる。
3	大学院制度・研究機関の概要について説明できる。
4	研究医、臨床医、行政医のキャリアアップに重要な事項について説明できる。
5	家庭と職場の両立に何が必要か想定できる。
6	自分の将来像を幾通りか思い描くことができる。

・講義場所

講義：大堀記念講堂 実習：SGL、食堂

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	目標番号
講義	10/6(水)	1	総合診療医学分野	下沖 収 教授	初期臨床研修制度の概要および地域医療を担う医師のキャリアアップ事例	1

講義	10/6(水)	2	医学研究科長	佐々木 真理 教授	大学院制度の概要、研究機関の概要	3
講義	10/6(水)	3	附属病院長	小笠原 邦昭 教授	専門医制度の概要	2
実習	10/6(水)	4	衛生学公衆衛生学講座 細胞生物学分野 腫瘍生物学研究部門 宮城県立がんセンター頭 頸部内科 医療開発研究部門	坂田 清美 教授 齋野 朝幸 教授 前沢 千早 教授 山崎 知子 診療科長 王 挺 特任講師	女性医師のキャリアアップ事例 グループワーク①	5,6
講義	10/7(木)	1	岩手県医師会 外科学講座	小原 紀彰 会長 片桐 弘勝 講師	臨床医としてのキャリアアップ事例	4,6
講義	10/7(木)	2	麻酔学講座 産婦人科学講座 福島女子刑務所	鈴木 健二 教授 小山 理恵 特任教授 山口 晶子 医務課長	臨床医・女性医師としてのキャリアアップ事例	4,5
講義	10/7(木)	3	岩手県保健福祉部医 療政策室 循環器内科分野 岩手県立久慈病院 消化器内科	高橋 宗康 医務主幹 森野 禎浩 教授 桎屋 美緒 医長	行政官・臨床医・女性医師としてのキャリアアップ事例	4,5
実習	10/7(木)	4	分子分子医化学分野 衛生学公衆衛生学講座 細胞生物学分野 腫瘍生物学研究部門 医療開発研究部門	古山 和道 教授 坂田 清美 教授 前沢 千早 教授 齋野 朝幸 教授 王 挺 特任講師	研究医としてのキャリアアップ事例 グループワーク②・発表会	6

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	考え方-人生・仕事の結果が変わる	稲盛和夫	大和書房	2017
参考書	英語と日本語で読む武士道	新渡戸稲造著、奈良本辰也 訳	三笠書房	2009
参考書	女の感 男の鈍感	姫野友美	角川文庫	2016

・成績評価方法

総括評価：グループワーク成果物やキャリアアップに関するレポート等により評価する。
 形式的評価：グループワークで教員が各グループを周回し、各グループの成果物について適宜アドバイスを行う。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

講義室、SGL,食堂、PC、模造紙、ポストイット、マーカーペン

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC画面投影装置	2	講義
講義	ノートパソコン	2	講義